

本講習会では、一般的に多く使用される『SS3』との連携使用をメインに説明いたします。

主にデータ作成の流れと、データ作成時の注意点について説明いたします。

- ① BF1 の共通操作
- ② 杭基礎の入力
- ③ 独立基礎の入力
- ④ 布基礎の入力
- ⑤ ベタ基礎の入力
- ⑥ 結果出力
- ⑦ 『SS3』へのリンク

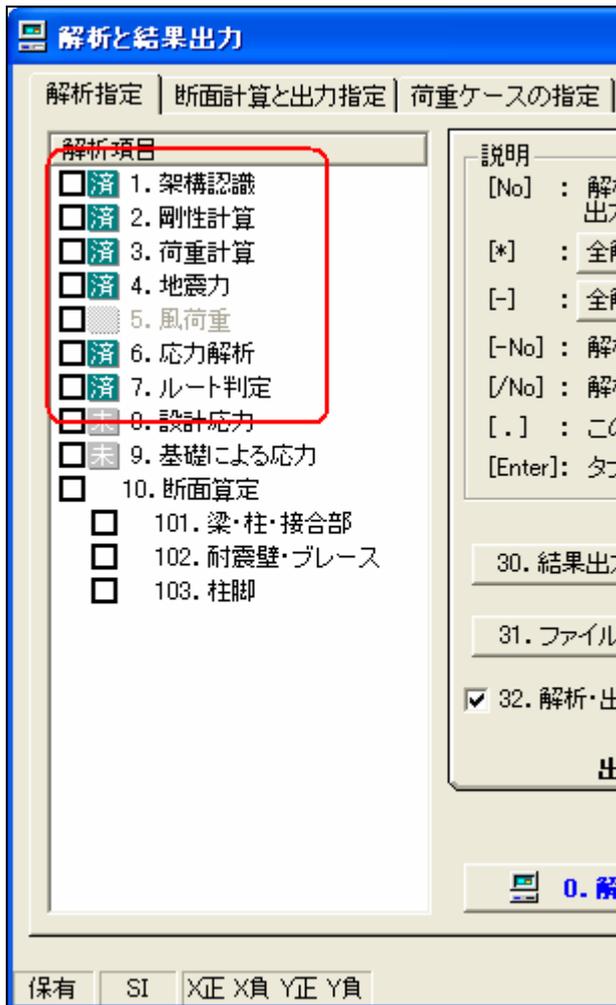
「BF1 計算において必要な SS3 の情報」

- ・最下層の架構(スパン数、支点位置、地中梁データ)
- ・軸力
- ・水平力
- ・柱応力

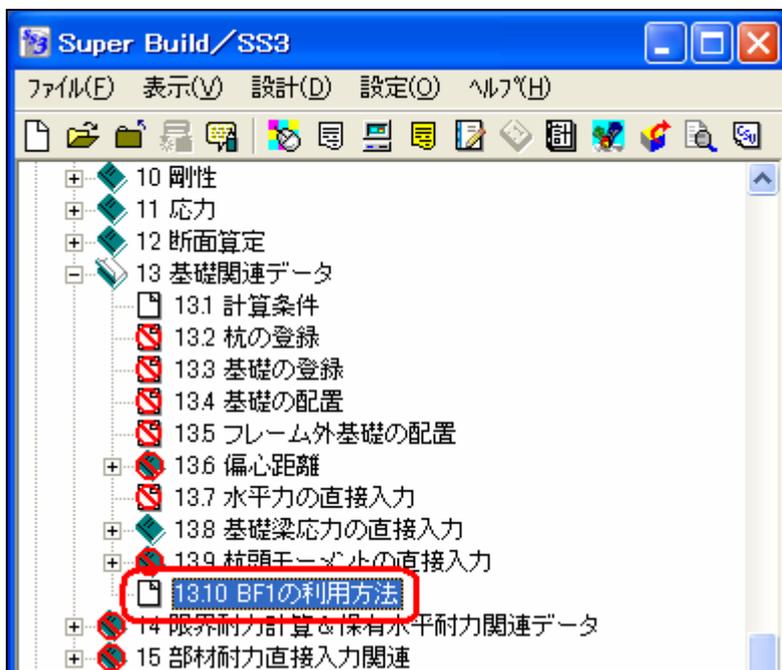
上記データを『BF1』に読み込み計算します。

『SS3』では、『BF1』で計算した基礎梁応力を読み込みます。

BF1 の共通操作



1.
『SS3』を起動し、[7. ルート判定]まで解
析を“済”としてください。



2.
[13.10 BF1 の利用方法]を指定します。

[13.10 BF1 の利用方法]が進捗禁止の
場合は、[13.1 計算条件—基礎の種類]
で“<0>考慮しない”を指定してくださ
い。

ベタ基礎の計算を BF1 で行う場合は、
「基本事項」で基礎の種類を「独立基
礎」として解析してください。

杭基礎の入力

独立基礎の入力

地盤データ登録

地盤データ | 基礎自重

	地盤符号	GLからの深さ(m)	ボーリングデータ
1	Z01	2.00	SoilBase File
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			

No.18 ボーリングデータ(SoilBase)のパス:
 ファイル選択... データ編集... 選択解除

OK キャンセル 更新(U) ヘルプ(H)

3. [地盤登録]を開き、地盤符号、基礎底面(フーチング底)を入力してください。

基礎データの登録

基礎登録 | 支持力計算

形状 | 配筋 | 材料

	基礎符号	タイプ	幅・長さ(mm)		せい(mm)	
			Lx	Ly	元端	先端
1	F1	長方形	1500	1500	700	450
2						
3						
4						
5						

[タイプ]で「円形」を選ぶと[Lx]で直径を入力します。
 [円形]の場合、支持力計算のみ可能で、[せい]の入力はありません。

OK キャンセル 更新(U) ヘルプ(H)

4. [基礎登録]を開き、基礎符号、フーチング形状を入力してください。
 タイプで円形を指定した場合、Lxで直径を入力します。

基礎データの登録

基礎登録 | 支持力計算

地盤データ | 設計支持力 | 計算方法

	基礎符号	地盤No	土の単位重量(kN/m ³)		支持地盤		GLより(m)		基礎底より(m)	
			支持地盤	根入部分	N値	地下水位	影響範囲	影響範囲		
1	F1	1	16.0	18.0	20.0	10.00				-2.0

支持地盤の種類
 粘性土 砂質土

[土の単位重量]は、水の単位重量を差し引かない単位重量を入力し、水中単位体積重量は、[地下水位]より自動計算します。

OK キャンセル 更新(U) ヘルプ(H)

5. [支持力計算-地盤データ]を開き、各パラメータ(基礎符号、地盤 No、土の単位重量、支持地盤のN値、GLからの地下水位、基礎底からの影響範囲)を入力してください。

布基礎の入力

基礎データの登録

基礎登録 支持力計算

地盤データ 設計支持力 計算方法

基礎符号	Df効果		荷重の傾斜θ(度)		支持力度		計算(qal/qas)の内訳(kN/m ²)			長期許容支持力度(kN/m ²)		短期許容支持力度(kN/m ²)	
	低減率(%)	長期	短期	低減率(%)	粘着	自重	根入	計算qal	設計qal	計算qas	設計qas		
1 F1	0	0.0	11.3	0	0	112/51	400/306	511	510	714	710		

OK キャンセル 更新(U) ヘルプ(H)

5. [支持力計算－設計支持力]にて、自動計算した[計算 qal] [計算 qas] の値を確認できます。ここで、[設計 qal] [設計 qas]を入力してください。

支持力検定比などの計算には、入力した[設計 qal] [設計 qas]を用います。

伏図データ配置

支点位置 | 軸力 | 柱 | 基礎梁断面 | 布基礎1 | 布基礎2

布基礎No | 寄りタイプ° | オフセット | 基礎境界

	101	---	102	---	103	---	104
4	*		*	1	*	1	*
---	1		1		1		1
3	*	1	*	1	*	1	*
---	1		1		1		1
2	*	1	*	1	*	1	*
---	1		1		1		1
1	*	1	*	1	*	1	*

基礎梁を配置した位置のみ配置できます 単位：—

OK キャンセル 更新(U) ヘルプ(H)

6. [伏図データ配置－布基礎1－布基礎No]を開き、[基礎登録]で登録した基礎Noを配置してください。

伏図データ配置

支点位置 | 軸力 | 柱 | 基礎梁断面 | 布基礎1 | 布基礎2

布基礎No | 寄りタイプ° | オフセット | 基礎境界

	101	---	102	---	103	---	104
4	*		*	0.50	*	0.50	*
---	0.50		0.50		0.50		0.50
3	*	0.50	*	0.50	*	0.50	*
---	0.50		0.50		0.50		0.50
2	*	0.50	*	0.50	*	0.50	*
---	0.50		0.50		0.50		0.50
1	*	0.50	*	0.50	*	0.50	*

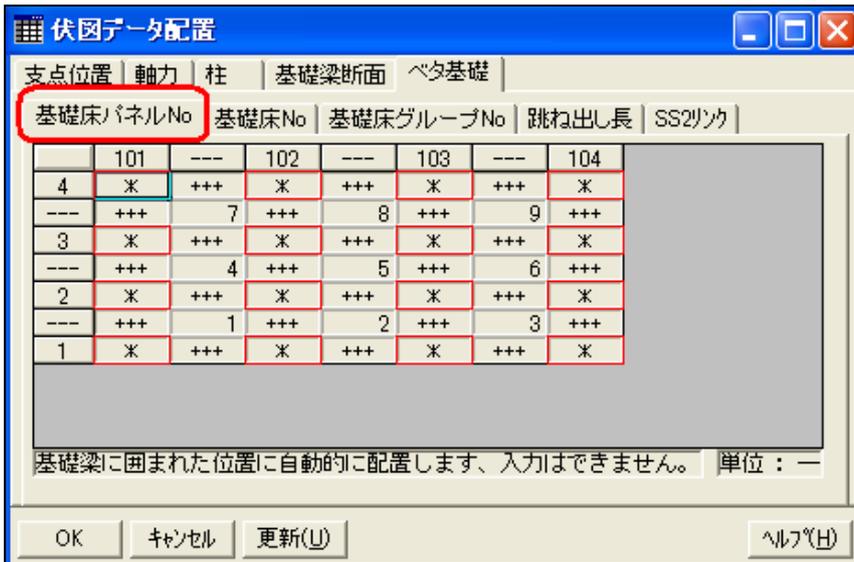
単位：—

OK キャンセル 更新(U) ヘルプ(H)

7. [[伏図データ配置－布基礎1－基礎境界]を開き、基礎境界を確認してください。初期値は[0.50]が入力されています。

各支点における布基礎の領域(面積)を決めるための係数を入力します。

ベタ基礎の入力



10.

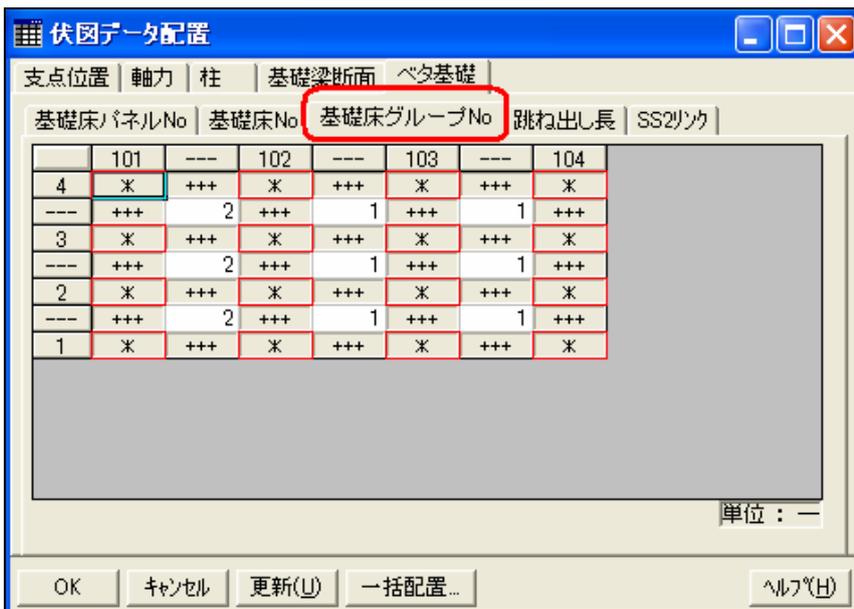
[伏図データ配置－ベタ基礎－基礎床パネル No]では、基礎梁に囲まれた基礎床に自動的に付けられた基礎床パネル No を確認できます。



11.

[伏図データ配置－ベタ基礎－基礎床 No]では、各スラブ位置ごとに[基礎床登録]で登録した基礎床登録番号を指定できます。

『SS3』と連携使用している場合は、『SS3』での床配置を自動で読み込みます。



12.

[伏図データ配置－ベタ基礎－基礎床グループ No]を開き、各スラブ位置ごとに基礎床グループ番号を指定します。

基礎スラブの形状は、同じ番号を入力した基礎スラブを包括する長方形とします。